

大阪府福祉基金地域福祉振興助成金

(地域福祉推進助成・その他事業)

「ウィズコロナ、ポストコロナに対応した

地域活動モデルの開発」

令和3年度 事例集

		ページ	
1	大阪市社会福祉協議会	ICTでもつながりづくりプロジェクト	1
2	豊中市社会福祉協議会	こども☆わかものフードサポート事業	2
3	池田市社会福祉協議会	食でつながる共生のまちいけだ	3
4	吹田市社会福祉協議会	オンライン講座を活用した新たなつながりづくり事業	4
5	泉大津市社会福祉協議会	人と人をつなぐ！どこでもコミュニティ事業	5
6	高槻市社会福祉協議会	スマホでつながろう！ICT活用コミュニティ講座	6
7	守口市社会福祉協議会	災害に備えたひとり暮らし高齢者見守り支援事業	7
8	枚方市社会福祉協議会	地域がつながるまちづくり事業	8
9	茨木市社会福祉協議会	IBARAKI コミュニティ・カーシェアリング	9
10	八尾市社会福祉協議会	繋がりづくりの背中を押します	10
11	泉佐野市社会福祉協議会	地域でも実践できる ICT 講座	11
		もっとつながるインスタライブ	12
		ZOOMではなそ子育てる～む	13
		リモート健康エクササイズサロン	14
12	富田林市社会福祉協議会	つながり配信事業	15
13	河内長野市社会福祉協議会	あんしんコール事業	16
14	松原市社会福祉協議会	コロナに負けない脳トレ教室	17
		高齢者等へのポスティング事業	18
		植物を育てながらの見守り活動	19
		ZOOMを使ったオンラインサロン	20
		オーダーメイドのウォーキングコース	21
15	大東市社会福祉協議会	「だいとう Tsunagarii ONLINE」事業	22
16	和泉市社会福祉協議会	みんなでローラー作戦(困った時はなんでも相談パンフレット)	23
		タブレットで新しいつながりを楽しもう！	24
17	箕面市社会福祉協議会	見守りオンラインプラットフォーム事業	25
18	柏原市社会福祉協議会	新たな地域拠点整備事業「つながれオンライン Area かしわ Life」	26
19	門真市社会福祉協議会	地域活動カムバックプロジェクト	27
20	摂津市社会福祉協議会	高齢者スマホ教室	28
21	四條畷市社会福祉協議会	オンライン会議・集いのための ICT 機器貸出事業	29
		認知症マフづくりプロジェクト	30
		「足力 UP！」歩行手帳」作製・配布	31
		「なわてこども未来新聞」～身近な福祉を学ぼう～	32
22	大阪狭山市社会福祉協議会	ICT化による新たな地域つながりづくり	33
23	阪南市社会福祉協議会	「ツナガリ・ツナゲル」ふくし農園プロジェクト	34
24	島本町社会福祉協議会	つながりネットワーク事業	35
25	能勢町社会福祉協議会	安否確認（訪問活動）	36
		人材発掘によるスポーツ体験（居場所）	37
		人材発掘によるピアノコンサート（居場所）	38
		なごみサロン（居場所）	39
26	太子町社会福祉協議会	つながり太子事業	40
27	河南町社会福祉協議会	かなん支え愛応援プロジェクト	41

※各市町村社会福祉協議会で作成いただいた内容を取りまとめました。

「ICTでもつながりづくりプロジェクト」

社会福祉協議会名：大阪市社会福祉協議会

●事業実績

対象者：市・区社協職員

参加人数：延べ112人

内容：

・ラウンドテーブルの開催

市・区社協のすべての部署を対象としたラウンドテーブルを開催、ICT活用に関する意見交換をおこない、現状と課題を把握した。

・「ICTでもつながりづくりプロジェクト」チーム会議の開催

6区の社協職員参画によるチーム会議で、社協として地域福祉活動でICT活用を進めていくために必要な視点を整理し、取組みを検討した。

・「社協職員のためのICTマニュアル」の作成

ラウンドテーブルのアンケート結果を受け、チーム会議で検討し、まずは社協職員がICT活用できるようになるためのマニュアルを作成した。

・「動画作成の事例集」の作成

動画作成に関する事例を集約し、今後の動画作成のヒントとした。

・取組みの発信

広報誌や市社協HP上で、事業の進捗や取組み内容について発信した。

●工夫したこと・力を入れたこと

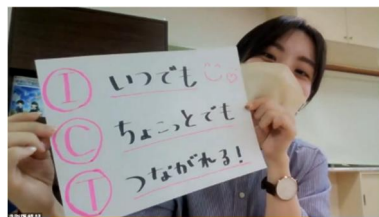
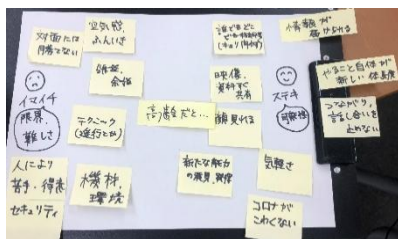
職員参画を進めることを基本とし、広く意見交換する場面（ラウンドテーブル）と、コアメンバーで詳細を検討する場（チーム会議）を設定し、事業を推進するよう工夫した。

●今後に向けて

地域・関係団体へ波及させるためには、市域での働きかけだけでは不十分であり、区社協から地域への働きかけを活性化する必要があることがわかった。次年度は、今年度作成したツールを各区社協で活用し、地域へ働きかけるよう事業展開する。

●参加者・地域の方たちからの感想やお声

「市・区社協のICT活用の取組みを知ることができ、自区での取組みの参考になった」や「ICTの取組みへの意欲が高まった」などとともに、チーム会議メンバーからは「マニュアルをステップにして、地域の方へ教えられるようになりたい」などの声があった。



大阪市社会福祉協議会
（ICTでもつながりづくりプロジェクト）
※この事業は、令和3年度大阪府福祉基金地域福祉推進助成金を活用しておこなっています。

こども☆わかものフードサポート事業

社会福祉協議会名：豊中市社会福祉協議会

●事業実績

対象者：生活困窮者支援対象家庭のこども等

参加人数：170人

内容：従前こども食堂等の利用を通じ、課題を抱える親子の発見や支援に結び付けてきたが、コロナ禍においては集う形式での支援策を組み立てることができず、長引く経済の低迷も伴い、状況はかなり深刻化している。この事業では、生活福祉資金貸付業務やコミュニティソーシャルワーカーの支援活動を通じてキャッチした子育て世帯に対し、食材支援や社会福祉施設が社会貢献として用意された弁当等を届けることで関係構築と状況の把握に努め、学習支援等適切な支援につなげていくことを目的とした。また、昨年度に実施した市内在学・在住の大学生に対する食材支援の取り組みは、大学生の孤立感の解消につながったほか、これまで社会福祉協議会と関わる事がなかった新たな層の開拓につながり、現在も継続して課題を抱える子どもへの学習支援等に携わってもらっている。

●工夫したこと・力を入れたこと

- ・事業を通じて、支援される側が支援する側に代われることを意識した取り組みを行った。
- ・写真の掲示や SNS により、寄付物品の活用見える化を図ることで、更なる寄付の広がりにつながった。

●今後に向けて

- ・宅食サービスの実施により、対象家庭の家事に対する意識や実行力の低さが顕著に見て取れた。今後家事サービスの実施に向け、調査検討していく。

●参加者・地域の方たちからの感想やお声

- ・食材、弁当は大変喜んでいただけた。
- ・イベントが楽しかった。
- ・コロナで地域活動が停滞する中、新たな取り組みができた。



食でつながる共生のまちいけだ

社会福祉協議会名：池田市社会福祉協議会

●事業実績

対象者：全市民。特にコロナ禍で生活課題を抱えた方や、社会とのつながりが希薄になり孤立している方など。

- 参加人数：①フードドライブ（全11小学校区。その他245人+企業・団体11）
②フードパントリー（3477人/全61回：10小学校区+2施設）
③配食（514人：全12回：ボランティア等16人）
④作業の会「せん」（74人/計15回）
⑤心をつなぐ電話（対象5人/計19回）

内容：コロナ禍で影響を受けている方々が、「食」を通じてあたたかなつながりを感じることができる取り組みを池田市全体ですすめようと、下記の事業を展開。

- ①フードドライブ（食品回収）：家庭や店舗等で使い切れない食品を回収
- ②フードパントリー（食品配布）：回収した食品を、無料配布をする活動。
地区福祉委員会・民生委員・施設・NPO・PTA・地域団体等の協力も。
- ③配食（月1回/上限50食）：見守りやつながりづくりが必要と判断した方々に対し、栄養士会監修の手作りお弁当を、配達ボランティア等がお届け。
- ④作業の会「せん」（月1~2回）：この事業に関わる作業（ボランティア活動）に取り組む。個別相談を受けている方や、親子、大学生、障がい者、高齢者、社会人など様々な方が参加。居場所としての役割も。
- ⑤心をつなぐ電話：ボランティアが定期的に電話で安否確認とつながりをつくる活動を実施。

●工夫したこと・力を入れたこと

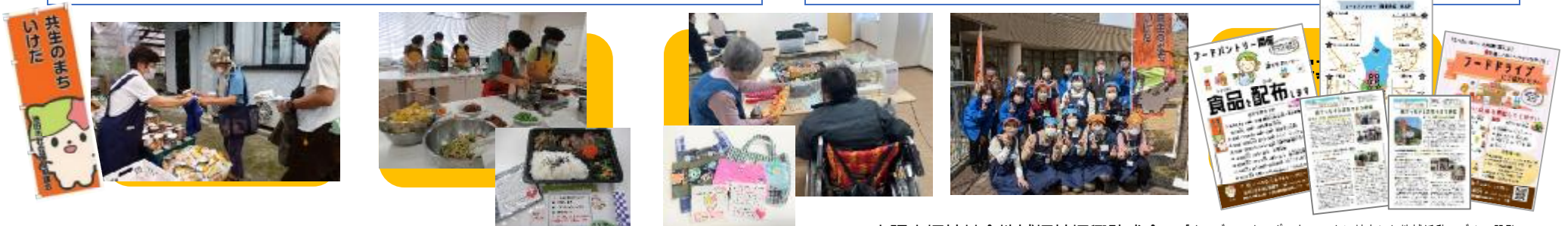
「食」という誰もが関わるものを通して、多くの住民・団体・企業と共につながり支え合いの輪を市内に広げようと、小学校区ごとで取り組みを展開。アンケート調査を実施し、各地区で工夫を続ける。また、一人でも多くの方へ情報を届けるため、掲示板や広報紙、Facebook、MAP作成、通信発行等広報活動にも注力。結果、新たに社協とつながった人が増えたことを実感。

●今後に向けて

令和4年度は、誰もが参加できる居場所づくりやICTの活用など、課題を踏まえて新たな形での実施を展開予定。引き続き、「食」を通して、多くの市民や企業・団体・関係機関とつながり、協力し合いながら、「共生のまちいけだ」を目指していきます。

●参加者・地域の方たちからの感想やお声

地域：他団体と取り組む意義や、若い世代の孤独感を知る機会でもあった。
市民：何かやりたいと思っていた時に活動を知った。今後も協力したい。
参加者：コロナ禍で気分が沈みがちな時に、この活動を知り、前向きになれた。開催している場が「ある」ことで、気持ちが明るくなった。



オンライン講座を活用した新たなつながりづくり事業

社会福祉協議会名：吹田市社会福祉協議会

●事業実績

対象者：市内在住の高齢者

実施地区数：10地区/33地区

延べ実施回数：14回

延べ参加高齢者数：142人

延べ協力者数：118人

※主な協力者：学生、地区福祉委員会、地域包括支援センター、福祉施設（高齢・障がい）、生協、介護予防推進員 など

内容：

スマートフォンやパソコンなどのオンラインツールに不慣れな高齢者を対象に、オンラインツールに実際に触れ、使い方を学ぶ講座を開催する。参加者については日頃から地区福祉委員会とつながりのあるサロンや昼食会に参加している高齢者に向けて周知を行う。また、コロナ禍で人とつながる機会を失った大学生に「人とつながる幸せ」「人に必要とされる喜び」を感じてもらうため、学生ボランティアを募集。講座で高齢者の学びを学生ボランティアがサポートし、高齢者と大学生が交流するきっかけにもなり、不慣れなものにチャレンジし、日ごろ交わりがない人との交流は、コロナ禍ではあったが、参加者にとって刺激のある時間であった。

また、この講座では、市内の福祉施設職員の協力もあり、今後、高齢者の生活課題について、より身近なエリア（地区）で協議できる仲間を増やすきっかけにもなった。

●工夫したこと・力を入れたこと

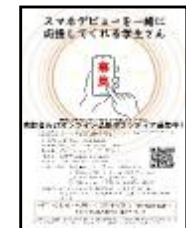
講座をきっかけに地域の中で新たなつながり、既存のつながりを強化するきっかけとなるよう、社協職員だけが講師になり教えるのではなく、スマホやパソコンの操作に慣れている学生ボランティアや関係機関（地域包括支援センターや福祉施設等）の強みを生かして、高齢者の操作のサポートを行った。

●今後に向けて

- ・コロナ禍で実施できなかった地区での講座の実施を検討。
- ・学生を含め多様な人、団体が参画できるような促しを継続して実施。
- ・地区福祉委員会や関係機関が共に高齢者の生活課題について身近な場所で協議するきっかけとなるよう心がけている。

●参加者・地域の方たちからの感想やお声

- ・世界が広がったように感じた。 ・1対1で教えられるのがよい。
- ・地域のために働いている人たちにお会いできてよかったです。
- ・若い方と楽しく学ぶことができました。
- ・不十分だが、教える立場になるとまた、より詳しくなる。
- ・笑顔になれる場所がこんな身近にあったなんて気づかなかった。



人と人をつなぐ！どこでもコミュニティ事業

社会福祉協議会名：泉大津市社会福祉協議会

●事業実績

対象者：地域住民全て（コロナ禍でつながりにくくなった子どもから高齢者、障がい者等）

参加人数：延べ人数467名

内容：・FMラジオ（コミュニティFM局「FMいずみおおつ」）を活用した細やかな地域情報発信、防犯啓発等を行う。また、FMラジオから流れるラジオ体操を活用して、身近な場所でのラジオ体操開催の啓発も行う。

・移動型の機動力を活かした屋外での集いの場づくり。コロナ禍で外出自粛によって、フレイル傾向気味の方達も含めた世代を超えた交流の機会や活動の機会を持っていただく。

・事業終了後も自分達で継続できるような働きかけも行う。

・体操を中心とした屋外での活動回数：37回

●工夫したこと・力を入れたこと

・新型コロナウイルス感染症拡大傾向の中でも、屋外で活動する事の強みを活かして、「短時間でも、誰でも、気軽に参加できる」という意識づくりから取り組んだ。

・高架下や公園など、地域の方が事業終了後も屋外で継続した地域活動が行えるように、事業がきっかけとなるような働きかけを行った。

・参加される地域の方の主体性を引き出せるように、企画段階から一緒に参加していただけるような働きかけを行った。

●今後に向けて

・今回は、様々な屋外での機動力を活かしたメニューを提案したが、要望が多かった体操の実施が主となった。コロナ禍でも屋外活動であれば感染予防対策をしながら活動できる可能性を実感していただけた為、今後はより多世代の方に関心を持って参加していただけるように啓発方法をさらに検討し、多世代交流の機会も含めた場を企画していきたい。

●参加者・地域の方たちからの感想やお声

・事業参加前は屋外活動をする事は考えられないという声が多く聞かれたが、参加後は心身ともに元気になったと実感され、参加して良かったという声が多く聞かれた。1度参加された方は、その後の屋外活動の場の情報提供をした際の反応が前向きで、再度参加したいという声が多く見られた。



スマホでつながろう！ICT活用コミュニティ講座

社会福祉協議会名：高槻市社会福祉協議会

●事業実績

対象者：高齢者（地区福祉委員会対象）

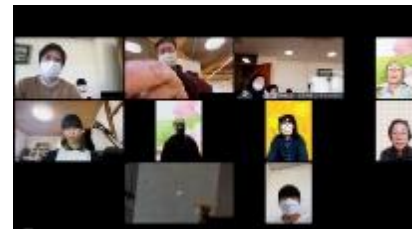
参加人数：1クール目（6人）、2クール目（1クール目参加者+3人）

内容：スマートフォンを活用した新たな地域のつながりの仕組みを構築するために、学識経験者や学生ボランティアの協力の元、高齢者向けに連続講座を開催。

講座の初回は参加者一人一人のスマートフォンに関する悩みや疑問に答える個別相談をメインに行い、その後LINEのビデオ電話や写真の載せ方等、その場で実践練習を行う。2クール目はスマホに関する興味のあるテーマごとにグループに分かれて学びを深める。

講座は1クール最大5回。講座終了後は参加者が所属する団体の活動の中で展開していけることが目標。

今回1クール、2クールと同じ地区で開催。講座終了時にはLINEのビデオ電話等、講座で学んだことが自らの力で出来るようになっている方もいた。来年度以降、参加者が所属する地区福祉委員会の活動にスマホを取り込んでいきたいという意思もあり。



●工夫したこと・力を入れたこと

運営側と参加者が交流しながら楽しめるような雰囲気を作ること。

講座の始めに、前回学んだことを復習する時間を設け、学んだことが身につくような工夫を行った。

●今後に向けて

講座を進めていく中で、参加者間のレベル差が生じたため、個々の満足度にも差があると思われる。参加者一人一人のレベルに合わせた対応を検討していきたい。

●参加者・地域の方たちからの感想やお声

参加者からの感想

「ビデオ電話が出来るようになったのは講座のお陰です」

「学生との会話が新鮮だった」

「講座で学んだことを人に教えられるようになった」

「今後は自分たちでスマホの勉強をしていきたい」

災害に備えたひとり暮らし高齢者見守り支援事業

社会福祉協議会名：守口市社会福祉協議会

●事業実績

対象者：市内在住の75歳以上のひとり暮らし高齢者

参加人数：10,882人

内容：市内在住のひとり暮らし高齢者が、ウィズコロナ、ポストコロナの時代においても地域で孤立しないよう、地区福祉委員を中心に見守り支援を行う事業です。

災害時に無事を知らせる「安否確認用タオル」を地区福祉委員が75歳以上の高齢者宅に訪問し配付しました。

地域の福祉委員と高齢者が普段から顔見知りになり、高齢者が福祉委員に相談も出来るような関係づくりを行うとともに、その体制を強化することにつながりました。

●工夫したこと・力を入れたこと

新型コロナの感染拡大の影響により地域の活動も制限されたものになっています。また、その状況がかなり長い期間になっています。今回の事業が、福祉委員のモチベーションの維持向上になるとともに、新型コロナで孤立するおそれのある新たな高齢者の発掘につながったと考えています。

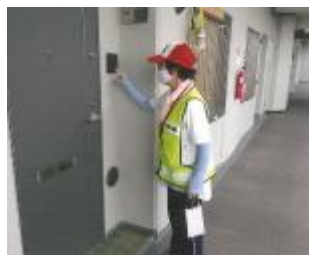
また、いざ災害が起こった時に迅速に安否確認が行えるよう「安否確認用タオル」を配付したことにより、市民の方の防災意識の向上にもつながったと考えています。

●今後に向けて

新型コロナの影響で、人と人とのつながりが希薄になったり、また、ストレスを感じている人も多くなっています。十分にコロナ対策を行った上で、原点に立ち返り地域における人と人とのつながりを大事にしていきたいと思えます。

●参加者・地域の方たちからの感想やお声

「黄色に赤い文字が目立っていいなあ」「実際に役に立つ日が来ないことを祈ります」



地域がつながるまちづくり事業

社会福祉協議会名：枚方市社会福祉協議会

● 事業実績

対象者：市民、地域の活動者

参加人数：約 **1,700** 人（ボランティア含む）

内容：校区福祉委員会の協力のもと、従来より発行していた本会発行の機関誌「社協ニコニコ新聞」をバージョンアップし、応募等参加型機関誌を発行した。枚方市内の外出困難な高齢者や要支援者が楽しく過ごすとともに、見守り支援やニーズの早期発見のために活用した。

また、**SNS** を活用し、地域福祉や社会貢献をテーマに、地域の活動者を中心に、事業所や福祉活動団体との関わりを深め、共に地域福祉を推進するきっかけ作りを行った。「#ひらかたのボランティアさんつながりたい」をつけ活動を発信してもらうことで、当会の **SNS** のアカウントで拡散し、他の活動者やボランティアの方との情報共有の機会とした。また、**SNS** 等への投稿を通して、自分たちの活動を知ってもらうことで、コロナ禍での活動のモチベーションアップにもつながった。

「#ひらかたのボランティアさんつながりたい」の啓発としてはステッカーを作成、地域の活動者に配布、また「社協ニコニコ新聞」にも記事の掲載を行った。



● 工夫したこと・力を入れたこと

コロナ禍で、外出に不安がある高齢者や障害のある方が地域とのつながりを感じてもらえるような、参加型の記事を掲載するように心掛けた。また、分かりやすい紙面作りとして、デザインや色使い等、地域の声を聴きながら、紙面作りを行った。

● 今後に向けて

今後は **SNS** を活用していない世代の方にもスマホ講習会等を通して、「#ひらかたのボランティアさんつながりたい」を活用してもらうための働きかけをしていきたい。

● 参加者・地域の方たちからの感想やお声

- ・ 今回の投稿を通じて、**SNS** を活用した広報の必要性を考えさせられた。
- ・ 訪問時、社協ニコニコ新聞をきっかけに会話が増えた。
- ・ 取材と通じて、久しぶりに人とゆっくり話げできた。



IBARAKI コミュニティ・カーシェアリング

社会福祉協議会名：茨木市社会福祉協議会

●事業実績

(全体)

5～6月：事業企画メンバー選定

7～8月：企画会議

12月：中間報告会

3月：報告書作成

(地区福祉委員会)

【玉櫛地区】

時期：9～11月（3回実施）

場所：児童遊園

内容：移動型出前サロン（参加者71名：スタッフなど除く）

対象：近隣住民どなたでも

【豊川地区】

時期：12月～3月（15回）

場所：豊川地区内⇒アルプラザ（スーパーマーケット）

内容：お買い物支援（参加者38名：スタッフなど除く）

対象：地域住民どなたでも

【穂積地区】

時期：3月（1回）

場所：穂積地区内⇒穂積コミュニティセンター

内容：移動支援（3名：スタッフなど除く）

対象：福祉委員会食事会参加希望者

●工夫したこと・力を入れたこと

福祉委員会の「どうしよう」に寄り添えるよう、事業そのものの企画から社協と福祉委員会と一緒に創り上げました。

地元レンタカー業者、ドライビングスクール、スーパーマーケットに協力してもらうことで、社協や福祉委員会活動を知ってもらいながら活動の輪を広げていきました。

●今後に向けて

1つでも多くの福祉委員会がこの事業をきっかけにコロナ禍で停滞してしまった活動を「〇〇しよう！」「〇〇したい！」と楽しく前向きに話し合い、活気ある活動を取り戻せるよう、丁寧な話し合いを進めていきたいです。

●参加者・地域の方たちからの感想やお声

- ・久しぶりに、たくさんの商品を見てお買い物をするのができ、感謝です。
- ・コロナ禍で足腰が弱り、もう食事会には参加できないかと思っていた中、送迎支援のおかげで皆に会うことができ嬉しく元気になりました。
- ・今日の参加をきっかけに、他の事業も参加してみようかなと言われてもらって感激。



繋がりづくりの背中を押します

社会福祉協議会名：八尾市社会福祉協議会

●事業実績

対象者：(A) 独居高齢者、(B) 乳児を育てている親、
(C) マスクの着用が困難な人の家族

参加人数：7,486人

内容：対象者それぞれの生活状況に合わせた孤立感の解消、つながり作りを後押しする。

(A) 独居高齢者への外出促進・孤立感解消事業

民生委員が独居高齢者を戸別訪問して、社協宛てのアンケートハガキを渡し、高齢者の孤立感の解消に努めた。

(B) 子育て中の親同士の繋がり作り事業

生後4～10か月ごろ(公園デビュー前・歩き出す前)の子を持つ親を対象とする簡易なサロン(オンライン交流会)を開催し、孤立感の解消と親同士の繋がりづくりを促した。

(C) with コロナで出てきた課題を抱えた人同士を繋ぐ事業

感覚過敏障がい等でマスクの着用が困難な人の家族を対象に簡易なサロンを開催すべく、悩みやご意見などを募集する広報活動を実施。



●工夫したこと・力を入れたこと

- (A) ハガキにクイズを用意し、その答えを集会所に掲示させることで、近所への簡易な外出を促し、閉じこもりを予防した。
- (B) オンラインサロンでは1人の子育ての悩みを参加者全員で共有し、専門職だけでなく参加者が一緒になって解決策を見出せるよう進行した。またその後の交流が続くよう、ご近所の子育て交流の場所を案内し、必要に応じた制度やサービスも紹介した。

●今後に向けて

- (A) 定期的に近所の集会所に出かけられるきっかけを仕掛ける。
- (B) 当初想定していた集合型でのサロンを開催し、地域での子育てサロン再開を促す。

●参加者・地域の方たちからの感想やお声

- ・ハガキのクイズをきっかけに独居高齢者さんとの会話がはずみ、ちょっとした困りごとなども聞き出せました。(民生委員さん)
- ・近くの子育て支援の場にも参加してみようと思いました。(ママさん)



① 地域でも実践できる ICT 講座

社会福祉協議会名：泉佐野市社会福祉協議会

● 事業実績

対象者：小地域ネットワーク活動を行っている福祉委員会協力員

参加人数：22名+他講師・スタッフ

内容：

平時でも非常時であっても地域住民同士が繋がり続けることの大切さを再確認し、一つの手段として ICT を用いた地域活動を案内し、地域で実践できるような働きかけを目的とした。

- ①操作体験講座でタブレットを触っていただき、ZOOM の操作を体験。
- ②講座では「地域で繋がり続けることの重要性」「ICT とは?」「ICT における地域活動の効果について」について、講師より説明。
- ③ICT についてまとめでは、ICT の注意点や実際に活用する際ポイントを解説した。

また最後に市内での事例を紹介した。

● 工夫したこと・力を入れたこと

参加者の数のタブレットを用意し、全員が体験しながら講座を受講できるような体制とした。また、講師をオンラインで行うことにより現地にいなくとも講座を受けることができることを実感していただき、地域活動に活かせるようにした。

● 今後に向けて

平時でも非常時でも地域活動が継続して実施できるように、ICT に慣れて実践につながるようにする。説明の方法や解説などを職員と一緒に講座を聞いているので、今後職員だけでも小単位での講座を組んでいくことができるようになった。

● 参加者・地域の方たちからの感想やお声

タブレットに触れてみて、実際にしたいとの声が上がると、まだまだ体験をしないと、物足りなさを感じる参加者もいた。手元にタブレットを持ちながらの講座になったので、イメージは付きやすいとお声もあった。



◀ 講座の様子



◀ チラシ

②もっとつながるインスタライブ

社会福祉協議会名：泉佐野市社会福祉協議会

●事業実績

対象者：未就学児の親子・泉佐野市内の子育て世代

参加人数：ライブ配信のため、人数の把握はしていない。

内容：

親と子どもでおうち時間を一緒に楽しめるコンテンツを通じて、地域のボランティア活動を知ってもらうことや、防災について考えてもらえるような配信をする。ライブ配信後は、いつでも視聴できるように再度動画を投稿している

年3回の配信を行った。

- ①おはなしの会のボランティアさんによる「絵本で子育て・親子で絵本を楽しみましょう」(8月)
- ②子育て支援をしているNPO法人による「楽器製作・遊び方紹介」(10月)
- ③民生委員児童委員協議会子育て部会による紙芝居。(9月)
- ④民生委員自動委員協議会子育て部会による動画。(3月)

●工夫したこと・力を入れたこと

双方向のコミュニケーションを意識した。ライブ配信は、視聴者からコメントやスタンプを送ることができるので、配信者の一方通行にならないようにした。また多様な団体と連携し、つながりを作っておくことで、いざというときの取り組みにつながるようにしている。

●今後に向けて

もともと継続的にインスタライブの配信を行っていたが、今後も継続的に実施し、他機関との連携を強化、拡大していく。

●参加者・地域の方たちからの感想やお声

活動の場がない中で、対面ではない方法を活用できてよかったとの声や、次回を楽しみにしている方々もいた。



▶ ボランティアによる絵本講座の様子



▶ NPO法人による楽器製作の様子



▶ 民児協による子育て部会



▶ 民児協による動画

③ZOOM ではなそ子育てる～む

社会福祉協議会名：泉佐野市社会福祉協議会

●事業の概要

対象者：子育て中の親・妊娠中の夫婦

参加人数：13名（うち親の参加は4名）

内容：

コロナ禍のため対面で話をする機会が減っている子育て中の親（妊娠中の夫婦）が子育てに関する悩みや不安などを気軽に話ができる機会を作るために、ZOOMのブレイクアウトルーム機能を使用し、フリートークをメインに実施した。フリートークでは、卒乳の時期や子どもとのふれあい方法、習い事、コロナで困っていることについて話をした。

子育て中の母親をサポートする事業や各種講座を行っているNPO法人と連携、また地域の子育てサロンのボランティアにもスタッフとして参加してもらった。

●工夫したこと・カを入れたこと

社協とNPO法人のInstagramの両方を使って広報を行った。またNPO法人とのリハーサル風景をインスタに投稿し、ZOOMの様子・雰囲気を感じてもらえるように工夫した。またリモートサロン当日は、ZOOMの操作説明時間を作って、ZOOMが初めての方でも気軽に参加してもらえるように広報を行った。地域活動を知り、ボランティアとつながるきっかけづくりをするため、同じ子育てママという立場から多様な話題を振っていただくことで参加のハードルを下げることを意識した。

●今後に向けて

地域活動に参加し、地域とつながることができるよう、コロナ禍の今、つながる機会のワンクッションとし、対面の子育てサロンにつなげていく。

●参加者・地域の方たちからの感想やお声

参加者からは、外出自粛や相談しにくい状況でも、オンラインでつながることができ、直接ではないものの、お話しする機会があったことがたいへんよかったとお声を頂いた。

▶
当日
ZOOM
画面



▶
チラシ



④リモート健康エクササイズサロン

社会福祉協議会名：泉佐野市社会福祉協議会

●事業の概要

対象者：新長滝自治会内の住民

参加人数：約 20 名

内容：

これまでのつながりを継続し、孤立を防止することを目的に、リモートサロンを企画した。

新長滝支部福祉委員会をモデル地区として、佐野記念病院の理学療法士と連携し、リモート健康エクササイズサロンを開催予定。介護予防・健康促進の観点から測定及び基本的なエクササイズをレクチャーしてもらい、その後個別の強化エクササイズを実施。

すでに地域で実施しているカフェ活動の場で行った。

測定はボランティアで行うため、7月にレクチャー会を実施した。

本来であれば5月から開催する予定だったが、緊急事態宣言等の影響により、10月からスタートし、11月に測定結果のフィードバックを行うために ZOOM を使用しリモートでサロンを開催した。

●工夫したこと・力を入れたこと

まず対面にて測定と基本項目を網羅したエクササイズ指導を実施。一か月後オンラインにて測定結果のフィードバックと個々人に応じた応用エクササイズの指導を行う。数か月後対面またはオンラインにて再度測定と評価を行うプログラムを考えている。

●今後に向けて

他の地域へ広がるように事例を紹介していく。

●参加者・地域の方たちからの感想やお声

地域の運営者の方々は、自分たちので出来るか不安であったが、回数をこなすことで、自信がついた。また参加者も体力測定があるので、今の自分の状態が分かってよかったとお声を頂いた。



▲測定指導



▲測定



▲基本エクササイズ指導



▲ZOOMにて測定フィードバック・応用エクササイズ指導▲



つながり配信事業

社会福祉協議会名：富田林市社会福祉協議会

●事業実績

対象者：市民全般、市内福祉施設、事業所、NPO 団体等

参加人数：38 人

内容：“つながり TonTonTube”の名称で、6月から Youtube チャンネルを立ち上げ動画による情報発信をする。保健所、病院、看護実習生、赤十字職員、警察、ボランティア団体とも協働し、コロナ禍においても活用ができる動画作成（情報提供）に努めた。

6月 配信開始紹介動画

7月 とんとん体操・市内コロナ感染状況等情報

8月 コロナ感染予防対策

* 状況変化による誤情報発信を懸念し、10月末までの限定配信

9月 お家で体力づくり体操

10月 慰問舞踊動画

11月 献血事業周知

1月 CSW 事業周知

3月 住民参加型軽度生活支援事業周知・消費者被害予防・

日常生活自立支援事業周知

【計 11 回配信】

●工夫したこと・力を入れたこと

緊急事態宣言下での配信開始となり、前半期は感染状況や感染予防動画、外出自粛による不活発予防の体操動画など、コロナ禍においてニーズのある内容の配信を工夫した。また後半期は、コロナの影響を受け発生している生活課題に対して、活用ができる社協事業等周知動画を計画的に配信した。

●今後に向けて

情報発信ツールとして、次年度以降も継続して活用する。アフターコロナには、地域に出向き地域活動動画を作成・配信をし、広く市民に向けた地域福祉活動周知が出来るような発展を目指したい。

●参加者・地域の方たちからの感想やお声

- ・動画を通じて、社協の業務を知ることが出来た。
- ・外出自粛時には、体操動画を見て自宅で運動したよ。
- ・コロナ禍で交流は出来ませんが、動画を見て利用者が喜んでいました。



あんしんコール事業

社会福祉協議会名：河内長野市社会福祉協議会

●事業実績

対象者：市内在住の65歳以上

一人暮らしのご高齢の方、高齢者のみの世帯

参加：事業利用者 4名 事業参加者 10名

事業協力者 1,200名（民生委員・児童委員、福祉委員等）

内容：河内長野市ボランティア連絡会が中心となり、傾聴ボランティア等が見守りかねた電話でのお声かけ(おしゃべり)をして、安否確認及びお話を聴きする。生活上の変化や異変、心身の不調などを感じた場合は、事務局を通じて、民生委員・児童委員、地域包括支援センター、専門機関と連携した。活動：週2回、月・木の10時～12時

3月 さざんかの会との調整、ボランティア連絡会への協力依頼

6月 ボランティア連絡会の有志で事業実施のための会議

7月 活動日や緊急時対応等を明確化し、今後の活動の継続性について会議

8月 実施開始日についての検討

9月 必要な物品についての共有、携帯電話の契約。連絡網を作成し、状況に応じて連絡を取り合えるようにした。傾聴ボランティア養成講座を実施。

10月 利用者申し込みのスタート。利用希望者へ事務局が面談を行う。スキルアップのためのロールプレイ、スマホの使い方も講習した。

11月 おしゃべりコール(あんしんコール事業)スタート(利用者2名)

12月 新規利用者1名(利用者3名) 実施後、情報共有を行う。

1月 事務局から利用者・関係者に電話でヒアリングを行う。

2月 新規利用者1名(利用者4名) コロナ感染拡大により会議は中止

3月 新規利用者獲得のため、情報発信を行う。

●工夫したこと・力を入れたこと

この事業で工夫していることは、今後の継続性を考えて、河内長野市ボランティア連絡会(ボランティア活動者)が主体となり、募集や取り組みなどを進めたことです。

テーマ型ボランティアは社会に役立つことがしたい、地縁型ボランティアは、安否について、気になっている方の紹介ができるシステムになるように工夫した。

●今後に向けて

今後は、河内長野市ボランティア連絡会の取り組みの1つとしておしゃべりコール部として活動していく予定です。また、おしゃべりコールの活動をきっかけに講習会など「自らが学びたい」というニーズもあり、ボランティア活動の活性化に繋がっていくことが想定されています。

将来的には、ボランティアの判断で活動回数など状況に応じて柔軟にできることを目指したい。

●参加者・地域の方たちからの感想やお声

関係機関にチラシ配架していただくと「チラシがインパクトあっていい、わかりやすい」、「おしゃべりコールの取り組みが素晴らしい」とお声も頂いています。また、利用者や関係者からも「電話で見守りをさせていただいて安心しております。今後も継続してほしい」とお声を頂いています。



① コロナ禍でもおたがいさんの気持ちでつながる孤立予防事業

社会福祉協議会名：社会福祉法人松原市社会福祉協議会

●事業実績 コロナに負けない脳トレ教室

対象者：外出自粛が懸念される高齢者等

参加人数：(登録者)507名

(会場) 18会場

内容：コロナ禍の中で、高齢者の閉じこもりを防ぎ、脳と身体の健康を守ることを目的として、三密を避けた状態での脳トレや棒体操の教室を開設しました。脳トレ教室は、登録者に「おたがいさんパスポート」を渡し、地域内の会場に来られた際に、そこにスタンプを押して、脳トレのプリントを渡し、自宅等で脳トレのプリントを行ってもらう取り組みです。会場によっては、その場で脳トレのプリントを行ったり、棒体操を行ったりできます。地域内の会場は、社会福祉法人、介護保険事業所などの諸団体にも協力をお願いしました。

●工夫したこと・力を入れたこと

コロナ禍で集まっての行事を行うのが難しく、今まで地域福祉活動に参加をしていた高齢者の居場所がない状態を解消するために、地域の諸団体に協力してもらい、会場まで出かけるという閉じこもりの予防、脳トレのプリントを行うという認知症の予防を目的にコロナ禍でもできる行事として工夫をして教室を開設しました。

●今後に向けて

社会福祉法人や介護保険事業所などにも呼びかけ、会場を増やしていきたい。今後は、会場に行ったときに高齢者等が専門職に気軽に相談できるような関係を作っていければ、身近な場所で介護の相談ができるようになるのではないかと考えています。

●参加者・地域の方たちからの感想やお声

参加者からは「行き場ができて、うれしい。」「プリントを楽しくやっている」などの感想が寄せられています。



② コロナ禍でもおたがいさんの気持ちでつながる孤立予防事業

社会福祉協議会名：社会福祉法人松原市社会福祉協議会

● 事業実績 高齢者等へのポスティング事業

対象者：コロナ禍前までに地域福祉活動に参加をしていた高齢者

参加人数：延べ **24,012** 名 福祉委員 **261** 名

内容：コロナ禍により対面や集まったの地域福祉活動が行いにくい中で、会わなくてもつながっているという思いのもと、詐欺防止のチラシや脳トレのプリントなどを封筒に詰め、福祉委員会を中心に、高齢者等にポスティングを行い、高齢者にとって必要な情報を直接届けることができ、さらには会えないことによるさみしさなどの解消を行いました。

● 工夫したこと・カを入れたこと

コロナ禍により、高齢者が外出を自粛している中で、対面が難しい中、ポスティングを行うことで、外からの見守りを行うことができました。また、警察署と連携しての詐欺防止のチラシや脳トレのプリントなどをポスティングすることで、外出自粛をして、詐欺などの情報が入ってきにくい高齢者に、必要な情報を直接届けることができました。

● 今後に向けて

警察署からも詐欺が増えていることから、高齢者に直接アプローチできるツールとしてポスティング事業が認知されていることから、コロナ禍がおさまるまでは、継続して続けていきたいと思えます。

● 参加者・地域の方たちからの感想やお声

人と会えないので「脳トレのプリントを楽しみにしている」といった声が多く寄せられています。



③ コロナ禍でもおたがいさんの気持ちでつながる孤立予防事業

社会福祉協議会名：社会福祉法人松原市社会福祉協議会

● 事業実績 植物を育てながらの見守り活動

対象者：見守り声かけ訪問などの対象者

参加人数：春（対象者）50名、（スタッフ）10名

秋（対象者）43名、（スタッフ）18名

内容：コロナ禍の中で、見守り声かけ訪問の対象者に直接対面して訪問することが難しくなっている状況下で、対象者の玄関先で植物を育てていただいて、詐欺や体操などの情報が入った封筒を定期的にポスティングする際に、対象者の状況を外からの見守りで確認していきます。その後、コロナが落ち着いた際や外でお見かけした際に花が咲いた、実がなったなどの情報を共有し、みんなで癒しの時間を過ごす取り組みです。

春はミニトマト、秋はチューリップの鉢植えをスタッフで準備をして、対象者に配布をしました。

● 工夫したこと・力を入れたこと

工夫したことは、コロナ禍で、見守り声かけ訪問対象者も自宅での対面などを嫌がられる方もいらっしゃる中、会えなくても植物の生育状況を見て、「世話ができていようであれば、元気である」とわかるように、直接会わなくても見守りができる方法をとっています。また、対象者も植物を育てることで、生きがいがづくりにもつながっています。

● 今後に向けて

見守り対象者だけではなく、外出を自粛している高齢者の方などにも、植物を育てる取り組みの参加を呼び掛け、町中に花や実があふれ、コロナ禍の中でも、自然と笑顔があふれる地域にしていきたいと考えています。

● 参加者・地域の方たちからの感想やお声

参加者からは、「自分も地域の一員として頑張って育てていこうという思いで頑張った。」という声が多く聞かれ、生きがいがづくりにもつながりました。「ミニトマトの実がなったときやチューリップの生育状況は、近所でも話のネタになり、コロナ禍でも地域内に自然と笑顔や会話があふれるようになった」との声も聞かれました。



④ コロナ禍でもおたがいさんの気持ちでつながる孤立予防事業

社会福祉協議会名：社会福祉法人松原市社会福祉協議会

● 事業実績 ZOOMを使ったオンラインサロン

対象者：地域活動に関心のある方、高齢者

参加人数：オンラインサロン参加者（実人数）47名

ZOOM 教室（実人数）20名

棒体操教室（延べ）472名、チューブ体操教室（延べ）205名

内容：コロナ禍により対面や集まったの地域福祉活動が行いにくい中で、松原市に関心のある方が、ZOOM を使って直接対面するのではなくオンラインで集まり、自分たちの活動の紹介や話し合いを通じて、松原を元気にしていこうという取り組みです。

また、ZOOM を活用して棒体操、チューブ体操の教室や音楽の演奏などの配信を行っています。

● 工夫したこと・カを入れたこと

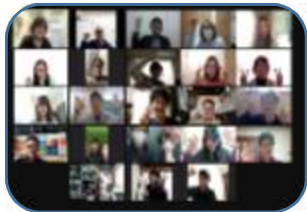
コロナ禍により対面や集まったの地域福祉活動が行いにくい中で、自分達が行っている地域福祉活動を通して、松原を元気にしたいという思いを持った方が ZOOM を通じて、オンライン上で集まり、自分たちのできる地域福祉活動を行っていけるようにサロンを進めています。

● 今後に向けて

ZOOM を使える方を増やして、コロナ禍で外出自粛が続くような時でも、オンラインでつながって、地域福祉活動を継続していけるような仕組みを作っていきたいと思っています。

● 参加者・地域の方たちからの感想やお声

オンラインサロンの参加者からは、「松原市内にもいろいろな活動をしている方がいて、自分たちも頑張ろう」という声が多く聞かれました。



⑤ コロナ禍でもおたがいさんの気持ちでつながる孤立予防事業

社会福祉協議会名：社会福祉法人松原市社会福祉協議会

● 事業実績 オーダーメイドのウォーキングコース

対象者：コロナ禍で、3密を避けてウォーキングをしたい方
普段の生活の中で、まちの花壇・名所を撮影していただけるボランティア

参加人数：撮影ボランティア 18名

内容：e コミマップ上に、撮影ボランティアが作成した写真をアップし、その写真をもとに、コロナ禍で閉じこもりがち高齢者が、自分自身でウォーキングを作成し、健康増進のために、自らウォーキングを行い閉じこもりの予防を図っていただこうと思います。

● 工夫したこと・カを入れたこと

普段の生活の中で見つけた町の名所を撮影して、LINE やメールで写真を送ってもらうボランティアということで、ボランティア活動のハードルは低いと考えられます。

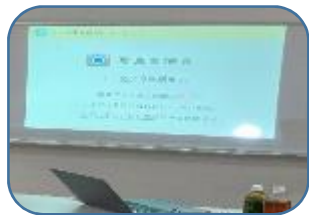
ウォーキングを行う高齢者も写真を見て、目的地をいろいろ選べることで、いつもと違うコースを歩くということで認知症予防、ウォーキングを行うことで介護予防につながると考えています。

● 今後に向けて

ボランティア活動としてハードルが低いと考えられる撮影ボランティアを増やし、ボランティア活動の入り口としてもらいたいと思います。町の名所については、いろいろな会社や事業所に協力をしてもらい、町の魅力を高めていきたいと思っています。

● 参加者・地域の方たちからの感想やお声

撮影ボランティアからは、自分たちが楽しみながらボランティアができるということで、非常に好評をいただいています。



「だいとう Tsunagarii ONLINE」事業

社会福祉協議会名：大東市社会福祉協議会

●事業実績

対象者：社協職員、民生委員児童委員、福祉委員、ボランティア

参加人数：57人

内容：「だいとうTsunagarii ONLINE」事業

- ① 「だいとうTsunagarii ONLINE」事業の開設準備研修会の開催 計11回 6月～8月に実施
対象：社協職員 研修参加人数：13名（実人数）
内容：ホームページ、公式アカウントの作成、LINE
- ② LINE講習会の開催
計22回 10月～3月 4団体に実施（1クール4回）
対象：民生委員児童委員、福祉委員
研修参加人数：34名（実人数）
- ③ 動画作成教室の開催
計8回 1月～3月 2団体に実施
対象：ボランティア団体 研修参加人数：9名（実人数）
- ④ LINE公式アカウントの開設（民児協、福祉委員会）
民児協：登録者数16名 福祉委員会：登録者数3名
- ⑤ SNSの啓発活動および基本操作の教授
3月より（まん延防止期間後から開始）

●工夫したこと・力を入れたこと

- ・ SNS 初心者でも参加しやすい内容・人数で講習会を開催。

●今後に向けて

- ・ LINE を活用し、平時・災害時の安否確認や日常生活に役立つ情報を提供するなど個別支援の充実を図りたい。
- ・ 各団体の活動紹介動画を市民に紹介し、地域福祉活動の活性化を図りたい。

●参加者・地域の方たちからの感想やお声

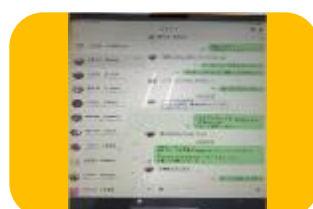
- ・ LINE の活用方法を示してもらえたのがよかった。
- ・ 講習会を受講してよかった。コミュニケーションを図るうえで効果的。
- ・ 動画作成講座を契機に市民に対する PR 手段として活用したい。



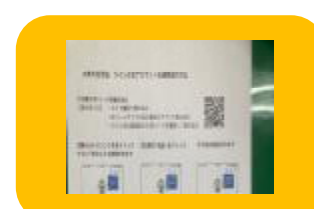
事務局職員への講習会



民生委員・福祉委員へのLINE講習会



公式アカウントの開設



公式アカウント登録方法



地域住民向けテキスト

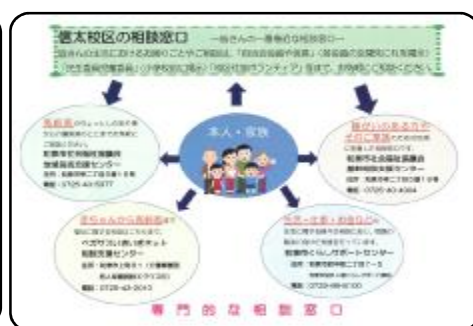
① 「みんなでローラー作戦(困った時はなんでも相談パンフレット)」

社会福祉協議会名：社会福祉法人和泉市社会福祉協議会

<h3>● 事業実績</h3>	<h3>● 今後に向けて</h3>
<p>対象者：対象地域の全住民 参加人数： 内容：コロナ禍により、人と人との接触が減る影響を受け、地域活動者は住民の困っていることをキャッチしにくくなった。そこで、困っている人から発信してもらえるように、相談機関等の連絡先を記載したパンフレットを実施地域の全戸に配布し、課題の早期発見・早期対応を目指し、事業を実施できた。</p>	<p>実施済地域については、第2・3回目を検討し困っている人からの早期発見（自身からの発信）を目指す。 未実施地域については、実施済地域のノウハウを活かし、実施を目指す。</p>
<h3>● 工夫したこと・力を入れたこと</h3>	<h3>● 参加者・地域の方たちからの感想やお声</h3>
<p>相談窓口パンフレットは、それぞれの校区の校区社協、民生委員、関係機関（地域包括・いきいきネット）等の意見を聞きながら、その校区に適した相談機関の連絡先を記載し、住民が“相談してみようかな”と思えるような文言で作成した。</p>	<p>近所に住む気になる方へパンフレットの配布をきっかけに、いきいきサロンや地域活動への参加を促すなど、新たな繋がりづくりを行ってきたい。</p>



【実施校区分 (A4 サイズ中折にて作成)】



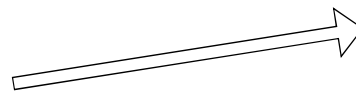
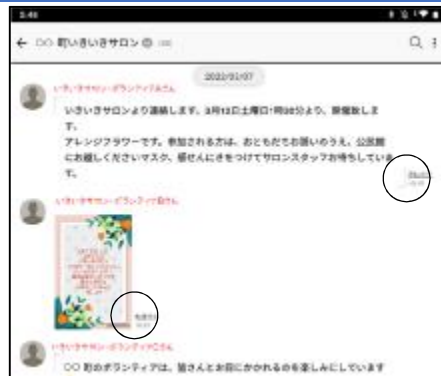
【令和4年度実施で進めている分：作成中 (A4 サイズ中折にて作成中)】



② 「タブレットで新しいつながりを楽しもう！」

社会福祉協議会名：社会福祉法人和泉市社会福祉協議会

● 事業実績	● 今後に向けて
<p>対象者：いきいきサロン参加の高齢者、いきいきサロンのボランティア、民生委員、関係機関（地域包括・いきいきネット）等</p> <p>参加人数：約20名</p> <p>内容：コロナ禍でいきいきサロンの開催がやり難くなった。そのため、ICTを活用し、タブレット端末を利用したメッセージのやり取りを楽しんでもらった。端末を利用した・利用していないから、安否を把握し、安否確認事業に結びつけた。</p>	<p>タブレット端末、使用アプリに問題はないが、タブレットのタッチパネル操作に慣れてから、事業実施した方がスムーズに進むと思われるので改善が必要。</p> <p>事業実施地域については、他のいきいきサロンに広めていき、ゆるやかな繋がりで安否確認事業を進めていく。</p>
● 工夫したこと・力を入れたこと	● 参加者・地域の方たちからの感想やお声
<p>後期高齢者はタブレットに慣れていないことを想定し、わかりやすい説明を心掛けたが、タッチパネル操作に慣れるまで時間がかかった（文字入力をする際、ガラケーはボタンを“押した”感触があるが、タブレットは感触がなく、また目的のボタンを押しているかどうか分からない）。令和4年度に向け、まずはゲームなどをしながらタッチパネル操作に慣れた方がよい。</p>	<p>使用アプリの機能である「既読者・未読者」が確認できることで、“あの人が読んでくれている”という安心感を感じる。</p>



メッセージ毎に、右写真のように既読者・未読者がわかり、安否確認ができる



見守りオンラインプラットフォーム事業

社会福祉協議会名：箕面市社会福祉協議会

●事業実績

対象者：箕面市内の13小学校区に在住する各種サロン参加者および見守りの必要なかたがた等

参加人数：125人(自団体職員8名その他ボランティア117名)

内容：開始当初は市内小学校区へ13台のICT機器(タブレット・Wi-Fiルータ)を配備し、見守り活動やオンラインサロン等の実施を予定していたが、ICT機器の配備後、各小学校区で新たな取り組みが生まれた。

5月から始まったワクチン接種で、「電話が繋がらない」「インターネット予約が難しい」という高齢者の声を受け予約支援の取り組みを実施した。萱野小校区では13自治会、地区福祉会、NPO法人が連携し、65歳以上の予約開始日に合わせ、5か所で3日間に渡りインターネット予約の手伝いを行い、本事業のICT機器を複数台使用し、54名の予約が完了した。北小校区では地区福祉会と民生委員・児童委員が、高齢者を対象に個別に声をかけて回り、10名のかたに予約支援を行った。2月には萱野小校区の4か所の会場で3回目のワクチン接種の予約支援を行い、14名の予約が完了した。

9月には豊川南小校区でオンライン子育てサロンを実施。会場をZoomで中継し、保健師の講演とパネルシアター、親子体操を実施。

ほか、地域ボランティア関係者の各種会議についてもオンラインを活用した。

●工夫したこと・力を入れたこと

・各小学校区の地区担当職員が適宜フォローし、ICT機器の導入支援をした。機器について興味のあるようなキーマンや取り組みのアイデアをもつかたを校区内で見つけ、そのかたを中心に導入支援を行うことに注力した。無理なオンライン化をせず併用から始め、機器やアプリケーションにこれまで触れる機会がなかった方々に疎外感がないよう心がけた。

●今後に向けて

- ・ワクチン接種の予約支援を継続的に実施していく。
- ・各校区でICT機器の使用に慣れたかたが、また別のかたへ使用方法を伝えるサイクルが生まれるよう支援していく。

●参加者・地域の方たちからの感想やお声

- ・離れていても会議等ができることが分かった。これから使っていける。
- ・ワクチン接種がいつ受けられるか心配だったが、予約ができて本当に良かった。
- ・校区の見守りの必要な高齢者を対象にICT機器の使い方教室をしたい。



新たな地域拠点整備事業 つながれオンライン Area 「かしわ Life」

社会福祉協議会名：柏原市社会福祉協議会

●事業実績

対象者：柏原市民
参加人数：4,000人
内容：

この事業の特徴であるオンラインを使った新たな地域拠点を整備するため、柏原市社会福祉協議会の団体事務局職員と柏原市の地域福祉団体である民生・児童委員協議会役員、地区福祉委員長、ボランティア連絡会会員を中心とした実施体制をつくり、オンラインの情報発信拠点である「ほのぼのかたしも」から柏原市9地区に向けて広く活動を発信し、リモート機器を活用した活動（リモート会議、研修会、リモートボランティア）を行いコロナ禍での地域福祉活動再開の一助とした。

つながれオンライン Area 事業の中ではじまった柏原市リモートボランティア活動（愛称「リモボラ」）では、感染予防対策に課題を抱え、利用者とのレクリエーション活動ができていない福祉施設のニーズと、大画面によるリモートコミュニケーションがはかれる機能が効果的にマッチし、柏原中へ広がりを見せ、柏原市内の保育園やダンス教室などボランティア団体以外にもコロナ禍で活動の場を求める団体からの依頼が増え「リモボラ」の普及につながり、ウィズコロナ、ポストコロナに対応した地域活動モデルとして成長した。

●工夫したこと・力を入れたこと

団体事務局職員間の連携をはかる「団体事務局職員連携会議」を発足したことで、各地域福祉団体との足並みを揃えた動きが可能となり、事業の円滑な実施につながった。また、連携会議の共通課題であったリモートを活用できる人材の不足や、高齢者のデジタル格差を補うため、地域の大学生を中心としたリモートサポートチームの養成に力を入れた。学生サポーターの参入は事業対象者のほとんどを占める高齢者層の意欲向上にもつながり、さまざまな地域福祉団体のリモート利用のきっかけに結びつくなど、事業を実施していくなかで、必要な取組が次々へとつながっていった。

●今後に向けて

つながれオンライン Area を起点として生まれた柏原市リモートボランティア「リモボラ」は新たな地域資源となり得るまで成長できたため、この資源をより効果的で身近な資源へと発展させることで、コロナ禍で外に出られない一人暮らしの高齢者や福祉ニーズを抱えた地域の方に届けるまでを目標として事業展開していきたい。

●参加者・地域の方たちからの感想やお声

- ・リモートは本当に苦手でしたが、今できる活動を今できるかたちで取り組むことができました。（80代女性ボランティア）
- ・コロナ禍でこそできたことだったり、知り合えた人がいたので、このつながりを大切にしたい。



●事業名 地域活動カムバックプロジェクト

社会福祉協議会名：社会福祉法人門真市社会福祉協議会

●事業実績

対象者：市内の地域福祉活動に関わる人及び障がい者施設

参加人数：1129人（校区福祉委員、ボランティア他）

内容：コロナ禍で地域福祉活動が大きく制限されるなか、活動再開のきっかけに苦慮している活動者に対して、感染予防を呼びかける啓発グッズを配布することで、感染予防と地域福祉活動の再開の両立を目指す。啓発グッズの作成にあたっては、コロナ禍で授産品の依頼が減少している障がい者施設の協力を得て、企画・デザイン・作成・梱包を委託し、障がい者の工賃の確保と社会参加の機会の創出を図る。

事業を進める中で、地域活動再開のきっかけとなるイベントとして障がい者スポーツとしても取り上げられる「ボッチャ」の大会を開催し、参加者に対して本事業で制作した啓発グッズの配布を行った。

●工夫をしたこと・力を入れたこと

啓発資材の作成については、多くの障がい者の事業所に関わってもらうために事業所の連絡会と何度も打合せを行い、資材の内容やデザインなどを企画検討した。結果として13か所の障がい者事業所に様々な形で関わってもらうことができた

●今後に向けて

パラリンピックの正式種目であったボッチャをイベントで取り上げたことに伴い、令和4年度においては、市内の障がい者や児童などが一緒に参加できる福祉教育を目的にしたボッチャの普及事業を実施することにつながった。

●参加者・地域の方からの感想やお声

障がい者施設からは、授産製品の作成にあたって、当事者のデザインが採用されたり、施設で企画提案に参加できること的好评を得た。



活動中の写真①
啓発グッズの梱包風景



活動中の写真②
ボッチャカップの様子



自慢の一枚
オリジナルラバーバンド



スタッフの写真
YouTube 動画での啓発



高齢者スマホ教室

社会福祉協議会名：摂津市社会福祉協議会

●事業実績

対象者：校区等福祉委員会委員

参加人数：52名

内容：コロナ禍における高齢者向けの情報提供やつながりを目的として、スマホ等の利用方法を学ぶため、スマホ講座を実施した。

講師として「NPO 法人生きがい・就労ラボ」（代表：遠座理事長）の方々に協力を得て実施。事前に参加者のスマホの機種と利用状況を確認した上で、グルーピングを行い、講座当日は参加者が所有するスマホを実際に用いて基本的なスマホの利用方法やアプリの取得、スタンプの取得、ラインの使用方法などを学ぶとともに、グループアースや Google レンズなどを使用しながら、スマホの利便性や楽しみを感じながら講座を行った。少人数のグループに数名ずつのチューター（操作を教える方）がつき、きめ細やかなアドバイス等を行った。連続2回講座で行われ、ラインの使用方法（グループラインの作成まで）を習得した。

●工夫したこと・力を入れたこと

参加者が参加しただけの講座にならないよう、講師との調整の段階で、事前のアンケート（グルーピングの資料とした）を実施。参加者によって機種の違いやスマホの理解度・使用頻度に大きな差があったが、グループ分けを行うことで、参加者各々が理解を深めていくことが出来た。

●今後に向けて

受講者が地域において新たに教える側（チューター）の役割を担っていただくことで、地域においてスマホやタブレットの利用が浸透し、地域福祉活動の充実に繋がるよう、引き続き本講座を継続的・発展的に実施していく予定。

●参加者・地域の方たちからの感想やお声

楽しく受講できた。量的にも一つずつクリア出来て良かった。
スマホに触れること自体初めてだったので、ついていけないところもあったが、面白かった。
マンツーマンで教えてもらい、良かった。



① オンライン会議・集いのための ICT 機器貸出事業

社会福祉協議会名：四條畷市社会福祉協議会

● 事業実績

対象者：

自治会や地区福祉委員会、民生委員・児童委員協議会、ボランティア連絡会等地域福祉活動又は公共的と認められる事業をしている団体

参加人数：

延べ50人

内容：

地域福祉活動を実施する団体に ICT 機器の貸出及び研修等のサポートを行う事で、地域における ICT の活用を促進し、地域福祉活動を推進する。

本事業をきっかけに地区のインターネット環境の整備の後押しになった。

貸出件数6件（なわて子ども食堂、滝木間地区福祉委員会、美田町地区福祉委員会、中野新町地区福祉委員会、田原支所、人権・市民相談課）

● 工夫したこと・力を入れたこと

- ・チラシや「社協だより」での周知広報、各団体への個別説明
- ・簡単な操作マニュアルを作成、誰でもできるような工夫をした
- ・CSWや職員が地域に出向き操作方法を伝えた

● 今後に向けて

- ①使い方教室の開催
- ②大学生等の協力を得て個別サポートを行う

● 参加者・地域の方たちからの感想やお声

- ・オンラインが活用できれば若い人も参加しやすくなるのでは
- ・地域の催しのお知らせが回覧板以外でできる
- ・自治会のホームページを作る！
- ・オンラインもいいけどやっぱり対面で会えるのが一番



②認知症マフづくりプロジェクト

社会福祉協議会名：四條畷市社会福祉協議会

●事業実績

対象者：

地域住民、認知症高齢者等

参加人数：

51人（内訳：製作説明会参加者30人 ボランティア21人）

内容：

編み物が得意な高齢者や小中学生がマフを作成し、認知症高齢者等にマフをプレゼントする。マフ作りは気軽に自宅で行えるボランティア活動であり、手指を刺激するため認知症予防につながる。また、制作者のメッセージをつけて渡すことで、送った人送られた人の交流や相互理解を推進する。

自宅で行えるボランティアとして、多くの人が参加。研修会も対面とオンラインを使って実施することでコロナ禍でも多くの人が参加できた。認知症への理解を深めることができた。実際に利用していただき、認知症の方が落ち着くことができたとの成果があった。

マフ製作枚数 **140** 枚 配布先 **14** か所の他、市役所高齢福祉課、障がい福祉課窓口に設置（令和4年3月31日現在）

●工夫したこと・力を入れたこと

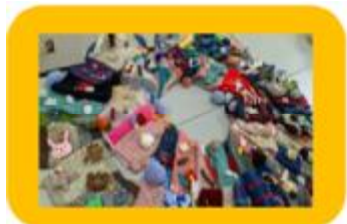
- ①自宅で気軽にできるボランティア活動として取り組むことでコロナ禍でもできることを広める。
- ②認知症への理解を深め認知症への取り組み、啓発活動につなげる
- ③製作によりボランティアにとっても認知症予防につながる

●今後に向けて

- ①認知症に限らず、効果が期待できそうな人への配布
- ②感想や効果を聞き取る方法の確立
- ③認知症へ理解を深める（認知症フレンドリーキッズ授業の開催）

●参加者・地域の方たちからの感想やお声

- ・触って気持ちがいいものを作って作った
- ・実際に認知症の方に使ってもらって感想を聞いて作った
- ・楽しんで作った
- ・かわいいマフをたくさんいただきありがとうございました
- ・点滴を抜かなくなりました



③「足力UP! 歩行手帳」作製・配布

社会福祉協議会名：四條畷市社会福祉協議会

●事業実績

対象者：

地域住民

参加人数：

延べ98人

内容：

コロナ禍で閉じこもりがちな高齢者が楽しみや達成感を感じてもらえるようウォーキング手帳を配布し、介護予防につなげる。運動への動機を高めるために手帳と万歩計、ウエストポーチを「やる気セット」として配布する。手帳はお遍路踏破等達成感を持ってもらえる工夫をする。

社協内にお遍路踏破マップを拡大して張り出すことで、参加者への声掛けもしやすく、参加者同士のコミュニケーションにもつながった。お互いの進捗を知ることが、継続の意欲の向上となった。運動のきっかけ作りとなり介護予防につながった。

●工夫したこと・力を入れたこと

- ①お遍路踏破を目的にして参加者の意欲向上につながった
- ②マップにして他者にも見えることで運動の動機付けと参加者同士の交流につながった

●今後に向けて

- ①手帳の増刷
- ②アプリ等と連動させてイベントを企画
- ③参加者への達成感を高めるための仕掛け（達成賞等賞状など）

●参加者・地域の方たちからの感想やお声

- ・2週目行っていいですか？頑張ってますやろ！
- ・ホンマにお遍路行かなあかんかと思てましたわ。
- ・手帳がいっぱいになって続きをノートに書いてます。
- ・皆さんがんばってますね。
- ・大きく張り出したらよく分かりますね。



④ 「なわてこども未来新聞」 ～身近な福祉を学ぼう～

社会福祉協議会名：四條畷市社会福祉協議会

●事業実績

対象者：

市内の小中学生

参加人数：

13人（参加小学生5人 取材協力民生委員8人）

内容：

福祉や支え合い助け合いに興味のある小中学生が豆記者になり、本事業や様々な催しを取材、勉強してもらい、新聞作りに参加することで、子どもたちが福祉やボランティアの知識を深め、その必要性を理解することで「福祉のまちしじょうなわて」を目指す。

こども新聞製作を通じて、参加した子どもたちに福祉に関心を持ってもらうとともに、子どもにもわかる新聞を発行することで、子どもの保護者を含め多くの人に「社会福祉協議会とは何か」「ボランティアとはどういうことか」などの「福祉」について知ってもらう。

●工夫したこと・力を入れたこと

- ①子どもへ福祉の関心を高めるために「豆記者」になってもらった
- ②地域福祉に携わる職員が福祉のことを伝える
- ③子どもたちに自分たちの身近にもたくさんボランティアがあることを知ってもらうような講座内容にした。

●今後に向けて

- ①学校へ早期に働きかけて周知する
- ②新聞の配布先を学校だけでなく拡大する
- ③本事業それぞれの事業を取材してもらう

●参加者・地域の方たちからの感想やお声

- ・楽しかった
- ・福祉のことがわかった
- ・自助具のことが知りたい
- ・民生委員のことを子どもたちに知ってもらえてよかった



ICT化による新たな地域のつながりづくり

社会福祉協議会名：社会福祉法人 大阪狭山市社会福祉協議会

●事業実績

対象者：地域住民（福祉委員含む）、ボランティア

参加人数：延べ **166** 人

内容：

- 地域（地区福祉委員会含む）で **ICT** を推進する人材育成を目的とした研修会・養成講座

コロナ禍における新たな手法として、人と人がつながりあえる仕組みづくりを目的とした「**Zoom** の使い方講座（～地域の新たな「つながり」づくり～）」をパソコンが得意なボランティアと協働で開催、連続講座として **1** 期目を **10** 月に **3** 回、**2** 期目を **3** 月に **2** 回実施した。参加呼びかけは福祉委員への通知、また本会広報誌へも掲載、地域でオンライン手法を学んで頂きたい方に広く周知を図った。講座受講者が地域での会議をオンラインで実施、また地区福祉委員会の会議をオンラインで試みるなど、緩やかではあるが地域に「新たなつながりの手法」も広がっている。

- 地域住民及び団体への **ICT** 機器の貸出及び **ICT** 機器を設置した会場の貸出サロン活動及び地域福祉活動等を目的とする自治会や団体を対象にタブレットとモバイルルーターの貸出等を実施、広く地域にチラシを配布し、機器を活用した集いの場の繋がり活性化を図った。

●工夫したこと・力を入れたこと

講座受講者が学んだことを地域の実践に繋げていけるように、実践交流ミーティング「ならなれの集い」も併せて開催、習うより慣れろを合言葉にフォローアップを行った。

●今後に向けて

ボランティア講師と協働しながら、住民が住民を支える仕組みを併せ持つ、**ICT** を通した「新たな地域のつながりづくり」の推進を図りたい。

●参加者・地域の方たちからの感想やお声

- ZOOM** 会議に参加ができるようになった。
- 是非、地域に持ち帰りたい。
- 帰ったら、孫と **ZOOM** で話したい。
- 一歩踏み出せそう
- このような企画を増やして欲しい。
- 皆さんと顔を見て会話できた。 ※全て **Zoom** 講座より



「ツナガリ・ツナゲル」ふくし農園プロジェクト

社会福祉協議会名：社会福祉法人 阪南市社会福祉協議会

●事業実績

対象者：農園活動に関心のある方・参加支援の必要性のある方

参加人数：82名（実人数）

内容：

“事業内容”

1. 様々な世代の「参加の場」として野菜・果物の栽培。
2. 収穫した野菜・果物の地域循環
市内の子ども食堂への寄附。生活困窮者への食糧支援、寄附付き商品として販売。



●工夫したこと・力を入れたこと

- ①生活に関する悩み相談に来られた方の心の支援、ツナガリづくり、就労にツナゲル支援を農園活動を通しておこなった。
- ②農園活動をきっかけに多様な主体がツナガれるよう、地域住民だけでなく、専門職、事業所、泉南学寮(少年院)、企業等も活動に巻き込んだ。

●今後に向けて

- ①農福連携だけでなく、漁業と福祉の連携へと発展させていく。
- ②多様な活動団体や活動自体をツナギ合う、協働・共創の視点を取り入れていく。

●参加者・地域の方たちからの感想やお声

- ①立派なおいものがたくさん取れて楽しかったです。農園作業に触れることがないので、貴重な体験ができて良かったです。
- ②このような活動で地域の方々と子どもたちが触れ合えて楽しかったです。
- ③Thank you Very much ! it helps so Good !

「つながりネットワーク事業」

社会福祉協議会名：社会福祉法人 島本町社会福祉協議会

●事業実績

対象者：コロナ禍で実施できない各種サロンや配食サービスの利用者等、
つながりを喪失している高齢者を中心とした住民

参加人数：2,367人

内容：

コロナ禍において孤立や不安を感じている住民に、あらためて人と人がつながる取り組みとして、缶バッジにメッセージを載せて届けた。

外出自粛期間中にデジタル社会から置き去りになってしまった高齢者が、インターネットを通じて「つながり」をもてるように、高齢者向けのスマホ教室を開催するための協力者向け勉強会を行った。順次スマホ教室の開催を予定していたが、コロナ禍でほぼ中止することになったため、令和4年度も引き続き実施する予定である。

安全にインターネットの世界を楽しめる場として作成した YouTube「しまもと社協チャンネル」では、関係機関・団体の協力を得てフレイル予防や折り紙、オンラインギャラリーなど多くの動画を投稿することができた。それらの動画は延べ2万回を超える視聴回数となり、視聴者からの反響は大きかった。また、インターネット環境を持たない高齢者には、福祉委員や地区ボランティアから毎月「社協からのニュースレター」を一人ひとりに配っていただき、コロナ禍でも人とつながる取り組みとなった。

●工夫したこと・力を入れたこと

YouTube で動画配信しているフレイル予防の体操は、パソコンやスマートフォンを持たない高齢者にも実施できるよう「社協からのニュースレター」（毎月約1100部配布）にも掲載し、より多くの方が楽しめるように動画配信とニュースレター配布の2種類の方法をとった。

●今後に向けて

令和3年度は地区福祉委員にスマホ教室の協力者を担っていただいたが、令和4年度は、これまでに地域福祉活動と関わりがなかった住民を、とくに若い世代を巻き込んで ICT への取り組みにご協力いただけるよう働きかける予定である。

●参加者・地域の方たちからの感想やお声

- ・YouTube「しまもと社協チャンネル」で配信しているフレイル予防体操等を活動の新たな取り組みとして考えたい。（地域活動者）
- ・スマホを使えると楽しい。もっと教えてもらえる場が欲しい。（高齢者）
- ・スマホ教室は、高齢者から大変感謝され、日常生活で感じとれない温かい気持ちになる。久しぶりに元気になった。（スマホ教室協力者）



① 安否確認（訪問活動）

社会福祉協議会名：能勢町社会福祉協議会

● 事業実績

対象者：能勢町民

参加人数：12名

内容：

能勢町障がい施設連絡会、能勢町介護保険事業所連絡会、施設CSW、社会福祉協議会CSW、SCに協力をいただき、本町全域に訪問活動

①安否確認

②情報提供

● 工夫したこと・力を入れたこと

新型コロナウイルス感染拡大防止対策。

独居高齢者への情報提供

脳トレプリント配布

● 今後に向けて

能勢町障がい施設連絡会等の団体へ協力強化依頼。

能勢町の情報提供。

福祉サービスの情報提供強化。

● 参加者・地域の方たちからの感想やお声

施設として協力でき嬉しかった。

脳トレプリントが楽しかった。

知らなかった福祉サービスがわかりよかった。



②人材発掘によるスポーツ体験（居場所）

社会福祉協議会名：能勢町社会福祉協議会

●事業実績

対象者：小学年

参加人数：37名

内容：

人材発掘（地域人材）により登録していただいた方による、小学生を対象としたスポーツ体験（ラグビー）。

- ①小学校運動場でラグビー体験。
- ②ラグビーの楽しさを伝える。
- ③体幹トレーニング。

●工夫したこと・力を入れたこと

新型コロナウイルス感染拡大防止対策。

ラグビーの楽しさを伝える。

低学年と高学年の指導方法。

●今後に向けて

必要用具の調達。

学校と連携し授業への講師派遣。

社会福祉協議会、福祉施設、学校と連携し継続開催。

●参加者・地域の方たちからの感想やお声

ルールがわからないけど楽しい。

地域の方から協力者増加。

もっと回数を増やしてほしい。



③人材発掘によるピアノコンサート（居場所）

社会福祉協議会名：能勢町社会福祉協議会

●事業実績

対象者：小学年

参加人数：41名

内容：

人材発掘（施設職員兼ピアニスト）により登録していただいた方による、小学生を対象としたピアノコンサート。

- ①本人、作詞作曲の歌の披露
- ②リクエスト曲演奏
- ③子供達と合唱

●工夫したこと・力を入れたこと

新型コロナウイルス感染拡大防止対策。

プロのピアニストの生演奏。

リクエスト曲の演奏

●今後に向けて

クリスマスコンサート、野外コンサートの実施。

学校と連携し授業への講師派遣。

社会福祉協議会、福祉施設、学校と連携しコンサートイベント開催。

●参加者・地域の方たちからの感想やお声

プロの生演奏を聴くことができよかった。

各種団体と協力し大きなコンサートができればいい。

PTAの方々にも聴かせてあげたかった。



④なごみサロン（居場所）

社会福祉協議会名：能勢町社会福祉協議会

●事業実績

対象者：能勢町民

参加人数：122名

内容：

福祉施設に協力いただき、なごみサロン（居場所）開設。

①日曜日午前中実施。

②集いの場、おしゃべりの場。

●工夫したこと・力を入れたこと

新型コロナウイルス感染拡大防止対策。

●今後に向けて

PRの強化。

送迎問題。

会場でのイベント。

●参加者・地域の方たちからの感想やお声

プログラムがなく気軽に来場できるところがいい。

年数回何かイベントをしてほしい。

この場に来るのが楽しい。



つながり太子事業

社会福祉協議会名：太子町社会福祉協議会

●事業実績

(対象者)

町内の高齢者・障害者およびボランティア

(参加人数)

自団体関係者：41人

自団体以外のボランティア：14人

上記以外：449人

(内容)

スマホ講座、リモート体操教室、社協公式アカウント運営の3本柱

対面での繋がりが重要であることを念頭に置きつつ、福祉の分野で遅れていると思われるデジタル化を推進することにより、非対面であっても楽しみながら繋がりを維持する環境を整備する。また、デジタル化を進めることにより、今まで繋がっていなかった分野との交流を持つことで、新たな人材を発掘しボランティア活動などの持続可能性の担保を目指すとともに、住民からの困りごとの相談窓口としても活用することを目指す。

(開催回数)

スマホ講座 33回

リモート体操教室 3回

公式アカウント 全体発信 20回 個別相談 12回

●工夫したこと・力を入れたこと

スマホ講座：受講生の都合に合わせて日程を調整している。

リモート体操教室：下見や事前確認などを丁寧に行っている。

公式アカウント運営：端末に触れる機会を増やす作業を盛り込んだメッセージを配信した。

●今後に向けて

スマホ講座：キャッシュレスやアプリの使い方など、受講者の要望に沿って講座内容を更新する。

リモート体操教室：体操だけでなく研修や交流会などリモート接続の経験値を増やし、多様な活用を随時導入する。

公式アカウント運営：楽しみながらスマホに触れる機会を増やし、時期に合わせて必要な情報を受け取れるように発信内容を工夫する。

●参加者・地域の方たちからの感想やお声

スマホ講座：「何が分からないかが分からなかったが、受講後は新たなことにチャレンジしたい」「家族には聞きにくいことを聞けるのでありがたい」

リモート体操教室：「他の交流サロンの活動内容が見られて参考になった」

公式アカウント運営：「いろいろな情報が発信され、気にかけてくれていることが分かり、ありがたい」「楽しみながらスマホを操作できた」



2つのサロンと体操の先生をリモートで接続
(リモート体操)



防災研修にも活用！
(リモート体操)



講座中に写真を
LINE グループに送信



他地区の住民がスマホ講座の様子を見学

かなん支え愛応援プロジェクト

社会福祉協議会名：河南町社会福祉協議会

●事業実績

対象者：地域住民 参加人数：**317名**

内容：新型コロナウイルス感染拡大により人と人が互いに距離を取り、接触を減らすことが求められ、地域福祉活動を積極的に実施していくことが難しい状況下の中、地域におけるつながりの喪失や、要支援者の孤立等の予防のため、新たな地域福祉活動（ICTを活用した活動等）の取り組みを進めた。

新たな活動をより発展、拡充させるため各地域の団体等と情報を共有し、新しいツールを活用した地域福祉活動の発展を推進するため、タブレットの貸し出しやタブレット講習会を企画（緊急事態宣言等により中止）した。

また、コロナ禍における情報誌を発行し、フレイル予防や地域の新たな活動等を発信することで、コロナ禍でのつながりの大切さを届け、ウィズコロナ、ポストコロナの活動を推進した。

コロナ禍に伴い、収入減少や失業等により生活に困窮する世帯が、地域で安心して暮らすことができるよう、生活困窮に関する相談支援の体制強化のため、CSW等専門職と連携し、生活困窮相談を実施。はと・ほっと相談室（自立相談支援機関）と連携し出張相談窓口の設置、及び情報共有を定期的に行う等、各関係機関との連携を強化した。

●工夫したこと・力を入れたこと

地区福祉委員会、各種団体、行政へタブレットの活用方法の発信等を行い地域の新たな人材の発掘に取り組んだ。生活困窮支援体制強化として受付シートを作成し、さまざまな相談から対応できるよう工夫し、早期発見に繋がるように努め、常時ははと・ほっと相談室と連携し課題解決へ取り組んだ。

●今後に向けて

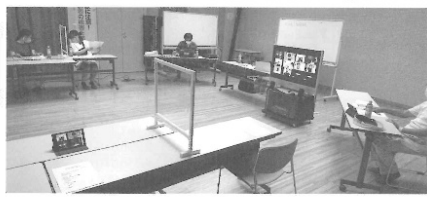
ウィズコロナ、ポストコロナの活動を推進する中で、行政と協働し新たなタブレットを活用した事業（認知機能チェック等からの相談支援）を構築した。このような活動の創出に努める。また、さまざまな相談支援においての生活課題等を通し、生活困窮世帯のケース発見に努め、関係機関の連携し今後も継続して支援体制の充実に努める。

●参加者・地域の方たちからの感想やお声

「タブレットを活用した新しい活動ができた」「（河南町）近くで相談するところがあり、ありがたい」「料理を作ってみた（ニュースレター）」等の声があり、今後も継続してほしいと話があった。



タブレットを活用した会議を開催 【河内地区福祉委員会】



【さくら坂2丁目地区】
8月8日(日)さくら坂地区集会所にて、社協が推進している「ふれあいタブレット」を活用し、いきいきサロンの運営等の会議が開催されました。コロナ禍でも参加者の安心・安全に配慮し、参加者のうち会場参加と自宅からリモート(遠隔)参加という2つの方法で行

われました。今後は、さくら坂2丁目以外の地区との合同会議も企画されています！「ふれあいタブレット」は、地域福祉活動団体に無料で貸出しています。ぜひ活用を！



みんなでできること

手作りマスクケースの作成



【ボランティア連絡会】

7月14日(日)地区福祉委員会の、ボランティア連絡会を開催しました。この日は、地域福祉委員会のメンバーが、ボランティアの皆さんと、地域福祉活動の推進について話し合いを行いました。また、地域福祉委員会のメンバーが、ボランティアの皆さんに、地域福祉活動の推進について、説明を行いました。

はと・ほっと相談室の出張相談所を開設

